

研究トピックス

「スプレー愛知夏1号」のボリューム向上技術

「スプレー愛知夏1号」は全国農業協同組合連合会と共同開発した黄色スプレーギクの新品種です。本品種はきれいな花色・花形で、スマートな草姿ですが、ボリューム感が不足しやすいことが難点です。そこで植物成長調整剤ダミノジットを用いることにより、草丈の間伸びを抑え、ボリューム感を向上させる技術の開発に取り組んでいます。消灯9日後と発蕾時に1,000倍液を散布することで、無処理に比べて切り花の重量が増加し、ボリュームが向上しました。今後は処理時期や濃度等を変え、より効果的な方法を開発します。

(東三河農業研究所)



ダミノジット
無処理 処理

子宮深部注入カテーテルを利用した豚の人工授精技術

人工授精は畜産の生産性向上に役立つ技術です。しかし豚では、1回の妊娠に2～3度の授精を行う必要があるうえ、1度の授精に多量の精液を要するため、他の家畜に比べ十分活用されていません。そこで、雌豚へのホルモン処理と、子宮深部注入カテーテルの使用により、通常の1/10の精液量を用い1度だけの授精で通常と同じ繁殖成績が得られる技術を開発しました。今後はこの技術を普及させるとともに、凍結精液を用いた技術開発に取り組めます。

(畜産研究部)

1回授精による繁殖成績

	子宮深部注入カテーテル使用	通常法
注入精子数	5億	50億
頭数	6	6
受胎率(%)	100	100
産子数	9.3±1.6	10.3±2.2



(ホルモン処理により授精の
タイミングを調整)

凍結精液により
得られた子豚
(子宮深部注入カテーテル
を使用)

本研究は「アグリバイオ実用化・産業化委託事業」で実施しました。

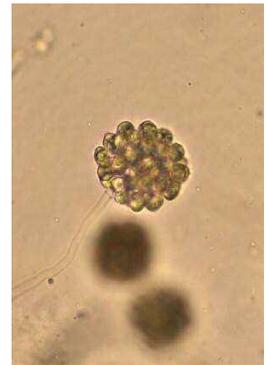
シヨクヨウホオズキ立枯病の病原菌を特定

平成25年9月にシヨクヨウホオズキの根が腐敗し、萎凋枯死する症状が発生し、生産農家では大きな問題となっています。調査の結果、高温性の土壌病原菌で、水を介して伝染する*Pythium aphanidermatum*が原因であることを明らかにしました。今後は、立枯病の防除技術の研究を進めます

(環境基盤研究部)



萎凋したシヨクヨウ
ホオズキ



水中で増殖する
P. aphanidermatum

ヤマユリの球根養成期間短縮技術の開発

ヤマユリは、奥三河に自生し、古くから「鳳来寺ゆり」の名前で親しまれてきた貴重な地域資源です。通常、種を播いてから花の咲く大きさの球根になるまでに5年程度かかることから、開花までの期間を短縮する栽培方法の開発に取り組んでいます。これまでの結果から、夜間に赤色LEDを照射したり、高温期の遮光によって地温を下げることで球根が早く大きくなることを明らかにしました。これらの技術を組み合わせ、栽培期間を4年以内に短縮できる方法の確立に向けて研究を進めています。

(山間農業研究所)



鳳来寺ゆり(ヤマユリ)



ヤマユリ苗への
赤色LEDの照射

研究短報第111号

編集・発行 愛知県農業総合試験場

〒480-1193 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-1

TEL 0561-62-0085 内線322 (企画普及部)

FAX 0561-63-0815

<http://www.pref.aichi.jp/nososi/>